



TITLE:

在外正貨處分二就テ

AUTHOR(S):

小川, 郷太郎

CITATION:

小川, 郷太郎. 在外正貨處分二就テ. 經濟論叢 1916, 2(3): 317-338

ISSUE DATE:

1916-03

URL:

<https://doi.org/10.14989/126977>

RIGHT:

學大科法學大國帝都京

叢論濟經

號三第

卷二第

論說

●在外正貨處分ニ就テ

法學博士 小川郷太郎

●穀物定期取引論

助教授 河田 嗣郎

●戰後ノ米國ニ於ケル歐洲移民運動ト日本移民問題ニ就テ

講 師 米田庄太郎

研究

●職工ノ災害扶助制度(工場法第十五條ノ施行)

法學博士 戸田 海市

●家中工業ニ就テ

同志社大學教授 瀧本 誠一

●本邦出生率増加ノ原因ニ就テ

講 師 高田 保馬

雜錄

●經濟雜話(二)

法學博士 田 島 錦治

●南北米經濟關係ト日支經濟關係戰後經濟問題

法學博士 神 戶 正雄

●歐洲戰爭ト其主要ナル社會學的因素

講 師 米田庄太郎

●職工扶助令ニ就テ

助教授 山本美越乃

●英國ノ食料品ト物價

助教授 河田 嗣郎

●獨逸ノ市統計所小觀

教授 財部 靜治

●まるさす生誕百五十年記念會記事

講 師 本庄榮治郎

經濟論叢

第二卷

第三號

(通卷第九號)

論

說

在外正貨處分ニ就テ

法學博士

小川 郷太郎

第一 緒言

歐洲戰爭ハ我國ヲシテ輸入超過ノ國ヨリ一轉シテ輸出超過ノ國トナラシメタ
許リデナク、我國ノ航海業ヲシテ異常ノ利益ヲ收メシムルニ至ツタ、ソコデ、我國ノ
正貨ハ大ニ増シタ、ソレニ、政府ハ露國ニ兵器ヲ賣却シテ、巨額ノ代金ヲ得ルコトニ
ナツタカラ、正貨ハ又大ニ増スコトトナツタ、武富藏相ノ言明スル所ニ依レハ昨年
十二月末ニ於テ日本銀行所有ノ正貨ハ三億六千三百萬圓デ、政府所有ノ正貨ハ一
億五千三百萬圓デアルガ、其中政府所有ノ正貨ハ全部、日本銀行所有ノ正貨ハ二億

二千六百萬圓外國ニ在リト云フコトデアル、¹⁾サウスルト三億七千九百萬圓ハ外國ニ在リ我國ニ存スルモノハ、僅ニ一億三千七百萬圓ニ過キナイ、是ニ於テ在外正貨ヲ如何ニ處分スベキカノ問題ガ起テ來タ、

此問題ニ就テ世上一般ニ行ハレテ居ル說ハ正貨ノ多キヲ以テ經濟界ノ危險ナリトシ速ニ之ヲ處分スベシト云フニ在ル様デアル、假ニ之ヲ正貨處分論ト名テ置ク、然ルニ余ノ見ル所デハ、正貨ヲ處分スルハ當ヲ得ナイ、正貨ハ集メテ置カネハナラヌ、正貨處分論ニ對シテハ、余ノ說ハ正貨蓄積論デアル、正貨蓄積ノ要ヲ論シ、正貨處分ノ不當ヲ論難スルノカ本論文ノ第一趣旨デアル。

既ニ正貨ハ積ミ立テ置カネハナラヌトスレハ、何レノ地ニ之ヲ置クベキ乎、又如何ナル方法ニヨリテ之ヲ貯ヘ置クベキ乎ノ問題ガ起ル、是等ノ問題ヲ解決セントスルノガ本論文ノ第二趣旨デアル。

第二 正貨蓄積ノ必要

一

在外正貨ヲ處分シテヨイカ、正貨ハ集メテ置カネハナラヌカラ判斷スルニハ、先

1) 貴族院豫算委員第一分科會議事速記録第一號四頁以下

ツ正貨カ國民經濟上如何ナル意義ヲ有スルカヲ明ニセネハナラス。

正貨ハ今日ニ於テモ、國民經濟上極メテ重要ナル意義ヲ有シテ居ル、ソハ金銀是レ富ナリトスル Mercantilism ノ思想カラ云フノデハナイ、信用制度ノ基礎ヲ維持スル上カラ云フノデアアル、今日ノ信用經濟ノ世ノ中ニ於テハ、銀行券ヲ發行スル銀行ガ其中心ニ居ル、銀行券ヲ發行スル銀行ハ、多クハ中央銀行トシテ知ラレテ居ル、中央銀行ハ、信用經濟ノ心臓ノ如キモノデ、其發行スル銀行券ハ血トナリテ、經濟社會ニ循環シテ居ル、故ニ信用經濟ヲ維持シテ行カウトセバ、中央銀行ニモ、銀行券ニモ何等ノ故障アラシメテハナラス、銀行券ハ中央銀行カ何時ニテモ正貨ニ換フルコトヲ約束スル證券デアアル、從テ中央銀行ハ何時ニテモ兌換ニ應シ得ナケレハナラス、若シ中央銀行カ、兌換ニ應シ得ナクナルト、銀行券ハ不換紙幣トナリ、信用ハ根柢ヨリ動搖スルコトトナル、信用ガ動搖シテ來ルト、信用經濟ノ特色ハ之ヲ發揮スルコト出來ナイバカリデナク、經濟社會ハ亂レニ亂レテ殆ト收拾スルコト出來ナクナル。之ヲ不換紙幣ノ效果ニ就テ考フルモ、不換紙幣トナレハ自然ニ濫發セラレ其價格ハ正貨ニ對シ下落スル、貨幣價格ガ下落スルト從來ノ債權關係ハ擾亂セラレサルヲ得ナイ、又貨幣價格ガ下落スルト物價ガ騰貴スル、物價カ騰貴スルト、一定ノ收

入デ衣食スルモノハ生活費ニ窮シ茲ニ生活問題ガ起ル、又物價ガ騰貴スルト國家ノ經費ハ膨脹シ茲ニ財政難ノ問題ガ起ル、又外國トノ關係ニ於テハ、爲替ガ亂レテ來貿易關係ガ亂レテ來テ、國際支拂難ノ問題カ起ル。

不換紙幣ノ此弊ヲ免レヤウトスレバ、百万兌換制度ヲ維持セテハナラヌ、兌換制度ヲ維持セントセバ、正貨ヲ十分ニ貯ヘ置カテハナラヌ、正貨ヲ蓄積スルノ必要ハ即チ茲ニ在ルノデアル、

以上論スル所ニ依テ之ヲ觀ルト、正貨ハ、兌換制度維持ノ上カラ見テ極テ必要デアル、理義明白殆ト疑フベキ餘地ガナイ

歐洲戰爭前ニ於テハ我邦人ハ皆兌換制ノ前途ニ危惧ノ念ヲ抱キ、如何ニ正貨ヲ蓄積スベキカニ就テ苦心シテ居ツタガ、今日ニ於テハ却テ正貨ノ多キヲ持テ餘ス様ニナツテ來タ、併シ正貨ノ蓄積セナケレハナラヌノハ、戰前モ今モ變ルヘキデナイ、否余ハ戰後ノ金融界ヲ豫想シ正貨蓄積ノ必要ハ今日ニ至リ更ニ急切トナツテ來タコトヲ感セサルヲ得ナイ、ソコデ進ンデ其觀點ニ立テ論シテ見ヤウ。

二

歐洲交戰國ニテハ現今既ニ非常ニ多クノ紙幣ガ發行セラレテ居リ、其額ハ戰前

ニ比スルト、二倍乃至三倍トナツテ居ル、然ルニ其正貨準備ハ戰前ニ比シテ、餘リ多クテ増シテ居ナイ、英國ハ今尙兌換制度ヲ維持シテ居ルケレドモ、ソレモ名義上ニ過キナイ様ニナツテ來ツツアル、佛露伊獨奧等大陸ノ諸強國ハ皆初メヨリ兌換停止ヲ爲シテ居ル、故ニ今日ニ於テハ紙幣經濟ガ行ハレテ居ルト謂ツテヨイ、然ルニ今後、戰費ハ増シテ行キ、銀行券ハ愈々増發セラレテ行クカラ平和克復ノ際ハ紙幣經濟ノ色彩ガ愈々濃厚トナツテ行クニ相違ナイ、⁽²⁾ソコデ戰後最モ重キヲ置カルベキ金融政策ハ兌換回復策デナクテハナラヌ、兌換回復ヲ爲スニハ、色々ノ手段ガ採ラレヤウガ正貨ヲ吸收スルト云フ策カ採ラレルコトハ殆ト間違ナカラウ、正貨吸收ハ戰時中ニモ既ニ各國ガ採リツツアル政策デアルガ、軍需品ヲ第三國ヨリ買入レル關係ヨリシテ、正貨ハ逆ニ流レテ出ツル勢ガアル故ニ正貨ノ吸收ハ、重ニ内國ニ流通スル正貨ヲ吸收スルト云フコトニナル、只英國ノ如ク殖民地ニ多クノ金鑛ヲ有スル國ニアリテハ、其金鑛ヨリ取り寄スルコトヲモ忘ラヌコトニナル、戰後ニ至リテモ此ノ如キ吸收策ハ繰リ返サレルデアラウカ、社會ニ流通セル正貨ニハ自ラ限リガアルカラ、戰後ニ於テサウ莫大ノ額ヲ集メ來ルコト出來マイ、ソコデ、正貨吸收策ノ重心點ハ、他國ヨリ正貨ヲ取り寄セル様ニシ、他國ニハ正貨ヲ出サヌ様

2) 拙稿戰後ノ金融界(大阪朝日新聞一月二十二日以下)
同戰後世界ノ金融(經濟論叢大禮記念號)

ニスルコトニ存セヤウ、各國ガ同様ニ此ノ如キ政策ヲ探レハ正貨ハ、各國ノ奪合フ所トナル譯、余ハ之ヲ正貨爭奪戰ト名ケタイ。

正貨爭奪戰ヲ爲ス方法ハ又色々アラウガ、第一ニハ輸入ヲ少クシ、輸出ヲ盛ニセホハナラヌ、併シソレハ必ズシモ、各交戰國ガ、戦後ニ至リ容易ニ行ヒ得ベキデアルマイ、第二ニハ、各國ハ、公債社債其他借金ノ形ニ於テ他國ニ融通ヲ爲スコトヲ避ケルデアラウ、又短期デ外國ニ融通シタモノハ期限ノ到來スルニ從ヒ之ヲ回收スルニ相違ナカラウ。

此クシテ、我國モ亦、正貨爭奪戰ノ餘波ヲ受ゲザルヲ得マイ、即チ我國ハ、戦後暫クノ間ハ少クトモ、英佛獨等ノ先進國ニ於テ、起債ヲ爲スコト出來ヌ、借換ハ新ニ正貨ヲ取テ來ルコトニナラヌカラ、絶對ニ出來ナイトハ云ヘスケレドモ、短期ノ借金ニ至リテハ、借換ノ相談モ六ヶ敷クナリ、資金ノ返却ヲ爲サチハナラヌコトトナルカモ知レヌ、此ク云ヘハトテ、余ハ四分半利付英貨公債カ大正十四年ニ至リ満期トナリテ少シモ借換ガ出來ナイコトヲ云フノデハナイ、大正十四年ト云ヘハ、尙十年モアル、其間ニハ戰爭ノ影響モ薄ライデ來ヤウシ、紙幣經濟モ終ヲ告ゲナイトモ限ラズ、問題ハ十年後ニアラズシテ、戦後數年ニアルノデアル、戦後數年ニ於テハ、正貨爭奪

戦力、最モ甚シク行ハレルデアラウ、其時ガ、我國ニトリテモ大ニ警戒スベキ時デアル。
正貨爭奪戦ニ備ヘヤウトスレバ、正貨ヲ蓄積シテ置カネバナラヌ、今日ニ於テ、正
貨ヲ手離シ、戦後ノ正貨爭奪戦ニ遇テ、更ニ正貨ヲ減ジ、而モ借金ニヨリテ、正貨ヲ得
ルコトモ出来ナクナルト、我國兌換制ハ忽チニ危クナルト謂ハネバナラヌ、ソコデ、
我國ハ今日カラシテ戦後ニ備ヘ子ハナラヌ從テ今日獲タル正貨ヲ離サス、之ヲ貯
ヘ置カ子ハナラヌ。

三

我國ガ、正貨ヲ集メテ置イテ、以テ歐洲戦後ニ備ヘ子ハナラヌ理由ハ又之ヲ内ニ
モ求メ子バナラヌ、ソレハ外デモナイ、我國ガ金産國デナイト云フコトト、我國カ債務
國デアルト云フコトデアル、我國ガ金ヲ産スル力ハ、朝鮮ヲ合セテ見テモ、年々二千萬
圓位ニ過キヌ、夫レ故ニ、正貨ヲ維持スルノハ、我國ノ金産力ニ依頼スルコト出来ヌ、戦
後ノ變ニ備ヘヤウトスレハ、今日ヨリ正貨ヲ握テ居ル必要ガ愈々切トナル譯デアル。
我國ハ債務國デアル、年々外債ニ對スル利拂ハ、六七千萬圓ニ達スル、今、在外正貨
デ外債ヲ償還スルノ策ヲ探ツタ所デ、利拂ノ減スル高ハ僅ニ四百萬圓位ニ過キヌ
從テ利子額ニ大ナル差ヲ生シナイ、毎年六七千萬圓宛利拂ヲ爲ストスルト、數年ノ

間ニハ三億圓位ヲ要スル、今日獲タル正貨ガアレバ、數年ノ利拂ハ保證セラレルト謂ツテヨイ、然ルニ、今俄ニ之ヲ處分シテ、戰後ニ備ヘズニ置クト、外債ノ利拂ニ窮スル様ニナラヌトモ限ラヌ、其時ニハ前ニ述ヘタ通り新ニ公債ヲ起スコト出來ナイデアラウカラ我國ヨリ正貨ヲ輸出セテハナルマイ是ニ至ラハ我兌換制ノ危機トナラサルヲ得ナイ。

我兌換制ノ危クナルコトハ何人モ欲シナイ所デアル、故ニ、如何ニシテモ、今日戰爭ノ影響ニヨリテ獲タル正貨ヲ握テ置イテ、他日萬一ノ變ニ備ヘルヤウニセテハナラス。以上述ヘタル種々ノ理由ニ依リ、余ハ、正貨ハ集メテ置カテハナラヌ、處分シテハナラヌト論斷セサルヲ得ナイ、然ルニ、今日、我國普通ニ行ハレテ居ル說ハ、正貨ハ早く處分セテハナラヌト云フニ在ル様デアル、仍テ其說ヲ吟味シテ見ヤウ。

第三 在外正貨處分論ヲ駁ス

一

正貨處分論ハ正貨ノ多キヲ以テ我經濟界ノ危險ナリトシ速ニ之ヲ處分シ之ヲ少クセウトスルノデアアル、其方法トシテ外債償還論ガ出テ來ル、故ニ在外正貨處分

ハ目的デ、外債償還ハ手段デアル、外債償還ハ減債基金ノ中ヨリ之ヲ爲サントスルガアリ、又ハ内債ヲ起シテ、之ヲ爲サントスルガアリテ、自ラ減債基金ニ關スル論議ト、借換ニ關スル論議トヲ伴ヒ來ルガ、愈々外債ヲ拂フト云フ段ニナルト、在外正貨ヲ以テ之ニ充ツルコトニナル、故ニ正貨處分トナリテ來ルノデアル、勿論、内債ヲ起シテ、外債ヲ償還スルト云フ說ハ、金利調節ノ思想ヨリ出テモ居ルケレトモ、在外正貨處分ト云フ考ト相待ツニアラザレハ、彼カ如ク、有力ナル說トナツテ來ナイ、故ニ先ツ在外正貨處分論ヲ攻メテ見テバナラス。

在外正貨處分論ハ誤テ居ルト思フガ、其誤ヲ明ニスルニハ、其議論ノ骨子タルベキ考ヲ吟味シテ見ナケレバナラス。

在外正貨處分論ノ骨子タルベキ考ハ大凡左ノ如クデアル、

正貨カ増スト、兌換券ガ増シテ來ル、兌換券ガ増スト物價ガ高クナル、物價ガ高クナレバ、輸出カ減シ、輸入ガ多クナリ、輸入超過トナリ、正貨ハ又出テ行ク、故ニ、正貨ノ量ノ餘リ増スノハ經濟界ニトリテ危險デアル、從テ之ヲ處分セナケレバナラス、ト斯ウ云フノデアル、(3)處デ、此說ハ、解決スベキ種々ノ問題ヲ少シモ解決セナイデ、而モ皆之ヲ肯定シテ、飛テ行ツテ居ルノデアル、ソコデ此說ノ是非ヲ判セントスレ

3) 本多精一氏、在外正貨ノ増加ト外債償還 (財政經濟時報第二卷第十二號三頁以下)
河津博士、在外正貨處分問題ニ就テ (國家學會雜誌第三十卷第一號一四〇頁以下)
田男爵大隈伯問答、貴族院議事速記録第六號五〇頁并ニ五二頁

ハ少シク立チ止マリテ、其解決スベキ諸問題ヲ解決セテハナラヌ、問題ト云フノハ外デモナイ、第一ハ正貨力増セバ、常ニ兌換券ヲ増スモノデアルカ否カト云フコト第二ハ、兌換券増發ハ常ニ物價ノ騰貴ヲ生スルモノデアルカ否カト云フコト、第三ハ、物價ノ騰貴ハ常ニ輸入ヲ増シ輸出ヲ減スルモノデアルカ否カト云フコトデアル。

二

第一、正貨力増セバ常ニ兌換券ヲ増スモノデアルカ否カト云フニ、ソレハ何時デモサウデアルト云ヘナイ、蓋シ兌換券ハ偶然ニ増發セラレルモノデナイ、兌換券ノ増發セラレルノハ、中央銀行ニ借金ヲナスモノガアルノニ由ル、中央銀行ニ借金ヲ爲スモノハ、政府タルコトガアリ、他ノ銀行タルコトガアル、政府ガ借金ヲスルノハ、財政上ヨリ來、他ノ銀行ガ借金ヲスルノハ金融逼迫ヨリ來ルノデアル、正貨ノ増減トハ直接ノ關係ガナイ、即チ正貨力増シタカラトテ、政府カ財政上借上ノ必要ヲ喚ビ起スモノデナク、金融ヲ逼迫ナラシムルモノデモナイ、只正貨ガ増シテ來レハ、財政上ノ借上又ハ金融逼迫ノ際ニ、兌換券ヲ發行シテ貸付ニ應スル力が大トナルニ過キヌ、ソレデアルカラ、此ノ如キ場合ニ於テノミ、正貨ノ増加ハ間接ニ兌換券増發ヲ助ケルト云フコトガ出來ル。

今之ヲ我國ノ實際ニ徴スルニ、大正四年度ニ於テハ、正貨ハ非常ニ増シタノデア
ルガ、兌換券ハ之ニ應ジテ増發セラレテ居ナイ、ソレハ外デモナイ我國ハ今ヤ獨逸
ト交戰中デアルケレドモ、歐洲交戰國ノ如ク莫大ナル戰費ヲ使ツテ居ナイ、從テ財
政上ヨリ日本銀行ヲ煩ハシ、借上ヲ爲ス必要カ起ラナイ、又輸出超過ノ現象ガアラ
ハレテ居ルニモ拘ラス、銀行ハ遊金ヲ擁シ、金融ノ緩漫ニ苦ミテ居ル、從テ普通銀行
ガ日本銀行ニ頻々ト貸付ヲ依頼スルニ至ラナイ、此ノ如ク財政上カラモ經濟上カ
ラモ日本銀行ノ貸付ヲ促スモノ少カツタトスレハ、一方ニ正貨ノ増加アリトモ、他
方ニ之ニ應スル兌換券ノ増發ナカツタコトモ容易ニ合點スルコトガ出來ル。

或ハ在外正貨ガ日本銀行ノ有ニ歸スルニハ、日本銀行ハ之カ代價トシテ兌換券
ヲ發行スルカラ、正貨ガ増ス丈ケソレ丈ケ兌換券モ増スト説ク、モノアラウカト思
ハレル(4)、併シ政府ノ所有ニカカルモノハ、日本銀行ニ對スル預金ヲ形クルニ過キナ
イデ、兌換券ノ増發ニ沒交渉デアル、又政府外ノ所有ニカカルモノニ關シテハ、日本
銀行ハ、外國ニ於テ受領スル正貨ニ對シ、内地ニ於テ兌換券ヲ發行スルコトハアラ
ウケレトモ、内地ノ金融ガ緩漫デアルカラ、其兌換券ハ忽チニ、普通銀行ヲ通シテ同
行ノ民間預金トナリテ復歸シテ來リ、兌換券増發トナラヌ、故ニ財政上政府借上ノ

必要カ起ラヌ以上、又民間ニ資金ノ需要カ起ラヌ以上ハ、只正貨カ増シタ丈デハ兌換券増發トナツテ來ナイト謂ハナラヌ。

過去現在ハ此ノ如シ、未來ト雖トモ、亦同シ論理デ之ヲ推知スルコトガ出來ル、即チ金融カ多少逼迫シテ來ルカ、又ハ財政上ノ困難ガ生スルカデナイト、如何ニ正貨ハ増ストモ、兌換券ハ増加スルコトアルマイ、然リ而シテ、近キ將來ニ於テハ金融ハ多少忙ハシクナリテ來ヤウケレトモ、未タ俄ニ逼迫ノ境ニハ入ルマイシ、又財政ノ必要ヨリシテ、大々的ニ借上ヲ行フコトモナカラウカラ、今後正貨ガ増シタ所デソレ丈ケ兌換券ノ増發トナルコトハ先ツナイト謂ツタ方ガヨイ、

正貨ノ多クナルモ、必スシモ兌換券ノ増發ヲ來サナイトスルト、論者ノ議論ハ第一着步デ敗レルコトニナル、併シ假リニ兌換券ノ増發ガアリトスルトソレガ果シテ常ニ物價ノ騰貴ヲ來スモノデアルカ否カト云フ問題ガ出テ來ル。

第二、ニ兌換券増發ハ常ニ物價ノ騰貴ヲ來スモノデアルカ否カト云フニ、余ハ常ニ必スシモ、サウデナイト答ヘタイ、兌換券ハ不換紙幣ト異リ、自ラ屈伸力ヲ持テ居ル、故ニ商業上ノ必要カラ出テ、兌換券ノ増發セラルルトキハ、兌換券ノ數量ニ並行シテ、財ノ數量モ増スコトモアリ得ベキデアル、此ノ如キ場合ニハ、物價ハ騰貴セヌ、

併シ財政上ノ需要カラ政府カ借上ヲナシ一時ニ、社會ノ需要以上ノ兌換券ガ發行セラル、ト大體ニ於テ物價ハ騰貴スルモノト云ヘヤウ、

又兌換券ノ増發ハ常ニ物價騰貴ノ原因デアルト解シテハナラス、時ニ或ハ物價騰貴ノ結果タルコトガアル、蓋シ物價騰貴ハ貨幣ニ關連シナクシテ、財ソレ自身ノ需要供給ノ關係ニヨリテ定マルコトガアル、殊ニ今回ノ戰爭ノ如キ、暴力ニヨリテ商業ヲ妨ケ、又ハ商船ノ擊沈抑留等ニヨリテ船腹ノ不足ヲ生シタノデアルカラ、財ソレ自身ノ需要供給ノ關係ハ大ニ權衡ヲ失フコトニナツタ、供給ノ少クナレルモノ、需要ノ盛ニ起レルモノハ、勢ヒ高クナラサルヲ得ナイ、我國ニ於テ、開戰後、染料、藥品、銅鐵、紙類等多種ノ商品ガ非常ニ高クナリタノハ其一例デアアル、此ノ如クシテ、財ソレ自身ノ需供關係ニヨリテ一旦、物價力高マリテ來ルト、之ニ適應スル通貨ノ量ヲ必要トスルコトニナリ、兌換券ノ増發ヲ促スコトニモナル、以テ、兌換券ノ多キハ却テ物價騰貴ノ結果タルコトモアルト云フコトヲ知ルベキデアアル、

我國モ最近ニ於テハ物價ガ大ニ騰貴シタト唱ヘラレテ居ル、併シソレハ、兌換券ガ多ク出タ結果ダト説クベキデナク、却テ諸種ノ財ノ供給ガ少イト云フコト又需要ノ大トナツテ來タト云フコトニ由ルモノト説カチハナラス、

要スルニ最近ノ物價ノ變動ハ、兌換券ヨリ來タト云ハンヨリハ戰爭ノ爲メニ財
ノ需供關係ノ亂レタノヨリ來タト云フベキデアル、サウシテ、物價カ騰貴シテ、取引
ニ多クノ通貨ヲ要スルヤウニナルト、兌換券ヲ多ク發行セシバナラヌコトニナル、
然ルニ、在外ノ正貨ヲ處分シテ、之ヲ惜ム所ガナイト、兌換券ヲ多ク發行セントスル
場合ニ大ニ窮スルコトトナルカトモ思ハレル、論者ノ議論ハ此點ニ關シテモ、真相
ヲ得テ居ナイト評セサルヲ得ナイ、

併シ之モ亦一步ヲ譲リ、兌換券増發ノ爲メニ物價ガ騰貴シタリトセンニ、尙茲ニ問
題トナルノハ、物價騰貴ハ常ニ輸入ヲ刺激シ、輸出ヲ減退セシムルカト云フコトデアル
第三ニ物價騰貴ハ常ニ輸入ヲ刺激シ、輸出ヲ減退セシムルカト云フニ、ソレガ一
國丈ニ起ツタノナラバ、正シク當ヲ得タル論ト評セシハナラヌ、併シ物價騰貴ハ現
今歐洲諸國ニ起リツツアル大現象デアル、吾々ハ尙進テ我國ト外國ト何レガ激シ
ク騰貴シテ居ルカヲ明ニセナケレバ、果シテ輸入ヲ刺激シ、輸出ヲ減退セシムルカ
ト云フコトヲ斷言スルコト出來ナイ、若シ輸入ガ多クナリ、輸出カ減退スルトセバ、
物價騰貴ハ歐洲諸國ヨリモ我國ニ於テ甚シト云フコトヲ説キ得シバナルマイ、
處デ我國ニテモ物價ハ騰貴シテ居ルガ、歐洲諸交戰國ノ物價ハ更ニ騰貴シテ居

ルヤウニ思ヘル、勿論或ル一定ノ財ニ就テハ却テ反對ニナルコトモアルカモ知レヌガ、大體カライウト斯クノ如ク結論セテハナラヌ、歐洲諸交戰國ノ諸物價ハ財ソレ自身ノ需供關係ノ變動ニヨリテモ居ルケレドモ、紙幣數量ノ増加ニヨリ影響セラレタコトモ亦掩フベカラサル事實デアル(5)、紙幣ノ數量ハ歐洲ニ於テハ戰前ニ比シ無慮七八拾億圓ヲ増シテ居ルニ由テ其一端ヲ知ルベキデアル、而シテ今後不換紙幣ハ愈々増發セラルルコト殆ト疑ナイ從テ又物價モ騰貴スルコトニナラウ、サウスルト我國ニテ物價カ高クナルモ、外國ノ物價ハ更ニ高クナリテ居ルト云ハチハナラヌ、我國ノ物價ヨリモ外國ノ物價ノ方ガ高クナリテ居ルトスルト、我國ノ輸入カ刺激セラレルト云フコトモ云ヘナカラウシ、又我國ノ輸出ガ大ニ減退ストモ云ヘナカラウ要スルニ、第三點ヨリスルモ、論者ノ議論ハ轍底セナイ所アリト云ハチハナラヌ、以上述フル所ニ由テ之ヲ觀ルト、在外正貨處分論ハ誤テ居ルト斷セテハナラヌ。

三

在外正貨處分論ハ前述ヘタルカ如ク其根本ノ思想ニ於テ誤テ居ルカ、其探ラントスル手段ニ至テハ更ニ誤テ居ル、其手段トハ外デモナイ、外債償還デアル。

從來我國ハ毎年一千万圓位宛外債ノ償還ヲナシテ來ツタモノデアルガ、在外正

5) Palgrave. Increase in Notes in circulation (Bankers Magazine Vol. C. no. 859. P 461-)

貨カ豊富ナルヨリ、本年ハ減債基金ノ中デ公債償還ニ充テラルル額全部即チ三千万圓ヲ提供シテ外債償還ニ充テルノミナラズ、尙進テ更ニ一方デハ二千万圓ノ内債ヲ起シテ、四分半利付英貨公債ヲ償還シ、他方デハ三千八百六十万圓ノ内債ヲ起シテ、在佛、國庫債券ヲ償還セントシテ居ル、僅ノ間ニ八千八百六十万圓ノ外債ヲ償還スルト云フコトハ我國ノ歴史ニ於テ未タ見サル所デアル、我邦人ノ膽玉ノ俄ニ大トナリタルニ一驚ヲ喫セサルヲ得ナイ。

此政策ハ正貨ノ多キヲ以テ我經濟界ノ危險ナリトスル論者ニハ安心ヲ與ヘルデアラウカ、國庫ハ非常ニ損失ヲスルコトヲ免レナイ、何故カト云フニ第一ニハ一方ニ起債シ、他方ニ還債スルニヨリ二重ノ手數ヲ要スルカラデアル、第二ニハ、高利ノ公債ヲ起シテ低利ノ公債ヲ償還スルカラデアル、(6) 第三ニハ全部買上償還ヲナスコト出來難ケレハ一部ハ抽籤償還ニ依ラネハナルマイガ、其償還ニ充テルカ爲メニ内債ヲ起ストスレハ、償還額丈ノ手取金ヲ得ネハナラヌカラ、起債額ハ償還額ヨリ大ナルコトトナルカラデアル、故ニ外債償還政策バ低利ノ外債ヲ償還スル爲メニ高利ノ内債ヲ起シ、一定額ノ公債ヲ償還スルカ爲メニ、ソレ以上ノ公債ヲ起スモノト云ハネハナラヌ、是レ減債ニアラズシテ、増債デアル、(7) 減債基金ノ根本趣旨

6) 高橋是清男、質問演說(貴族院議事速記録第十號一〇一頁)
 7) 拙稿、基金還元ハ不利(大阪朝日新聞大正五年二月四日)
 同我公債政策ニ就テ(法學新報第二十六卷第一號)

ニ戻ルモノデアル、減債基金ハ、ソレ自體、余リ感心ノ出來ナイ制度デアルガ、ソレデモ、表面ニハ減債ノ趣旨ヲ示シ、政府ハ計算上利益アリト認ムル場合ニ於テハ國債借換ノ爲メ低利ノ國債ヲ募集スルコトヲ得、ト定メテ居ル（國債償還基金法第五條）然ルニ今回ノ議會ニ於テハ、此條文ニ例外ヲ設ケ外債借換ノ爲メ高利ノ國債ヲ起スコトヲ得ル様ニシタ、國法ヲ以テ増債ノ方針ヲ定ムルトハ奇々怪々ノ沙汰ト謂ハチハナラヌ、是ニ至テハ、三尺ノ童子ト雖トモ、國庫ノ損失ノ大ナルコトヲ知ルデアラウ、其政策ノ誤レルコト又呶々ヲ要セヌ、誤リタル根本思想カラ出發スルト、其採ル手段モ誤リテ來ルコトハ自然デアルガ、減債ヲ期セズシテ増債ヲ期スルニ至ツテハ、更ニ誤ヲ重ネルモノト謂ハチハナラヌ。

第四 正貨蓄積地

以上論スル所ニ據テ之ヲ觀レハ、正貨ハ之ヲ處分シテハナラヌ、在外正貨デ、外債ヲ償還セントスル策ハ宜キヲ得タモノデナイ、正貨ハ之ヲ積立テテ置カチバナラヌ、正貨ハ積ミ立テテ置カチハナラヌトスルト、何レノ處ニ積ミ立テテ置ク乎、又如何ナル方法ニ依テ積ミ立テテ置ク乎ト云フ問題ガ出テ來ル。

正貨ハ何レノ處ニ積ミ立テ置ク乎ト云フニ、正貨ガ兌換準備ヲ爲ス上ヨリイヘハ、我國ニ於テ積ミ置カチハナラヌ、併シ乍ラ、我國カ債務國デアル以上ハ、年々少クトモ一定額ノ利拂ヲ爲サチハナラヌ、從テ利拂資金ヲ要スル、ソコテ利拂資金トシテ定額ノ正貨ヲ世界金融ノ中心タル地點ニ置クハ必スシモ不當デナイ、サレハトテ、余ハ今日、我國ノ探テ居ル政策ヲ辯護セントスルモノデナイ、今日ニ於テハ、既ニ述ヘタ通り、我國ニ在ル正貨ハ僅ニ一億三千七百萬圓ニ止マリ、残り三億七千九百萬圓ハ外國ニテ積ミ立テラレテ居ル、是レハ、主客ヲ顛倒シテ居ル、宜シク其一部ヲ内地ニ移スベキデアル。

在外正貨ノ一部ハ之ヲ内地ニ取寄スベキデアルガ、他ノ一部ハ矢張り外國ニ於テ積ミ立テテヨロシ、然ラハ、外國ハ何レノ地ニ於テスベキカト云フ問題ガ起キテ來ル、在外正貨ハ世界金融ノ中心ニ之ヲ置クヲ本則トスル、過去ニ於テ、英國倫敦ハ、世界金融ノ中心デアツタ、此地ニ我國ノ正貨ヲ置イタノハ強チ惡シクナイ、⁽⁸⁾然ルニ戰爭ノ永引クニ伴レテ英國ガ世界金融ノ中心タル威勢ハ次第ニ衰ヘテ行キツツアル様デアル、英國ハ今日ニ於テハ、尙兌換制ヲ維持シテ居ルガ、今後或ハ兌換ヲ停止セチハナラヌコトナルカモ知レヌ、若シ、サウイウ様ナコトガアリトスレバ、三億

餘圓ノ正貨ハ之ヲ保護預トシテ置カサル限り、三億餘圓ノ不換紙幣ト化シ去ルデア
ラウ、我國民ハ巨額ノ在外正貨ヲ得テ狂喜シテ居ルノデアアルガ、一朝ソレガ、紙ニ外
ナラヌト聞カハ、九天ノ上ヨリ奈落ノ底ニ落ツルカ如クニ感シ恐怖シ戰慄シ、落膽
シ、果テハ信用制度ヲ疑ヒ、經濟活動ヲ萎縮セシムルニ至ルテアラウ、英國ノ兌換制ハ
果シテ維持セラレルモノカ否カ、今ヨリ將來ヲ確メルコト出來ナイガ、既ニ此ノ如キ
心配ガアリトスレハ、巨額ノ正貨ヲ英國ニ集メテ置クノヲ危險トセ子ハナラヌ、故ニ
機ヲ見テ、在倫敦ノ正貨ノ大部ヲ漸々ニ、紐育ニ移サ子ハナルマイ、曩ニ日本銀行ハ、一
部ノ正貨ヲ紐育ニ移シタトカ傳ヘラレテ居ル、此政策ハ尙進テ之ヲ行ハ子ハナラヌ

第五 正貨蓄積ノ方法

最後ニ余ハ、正貨ハ如何ナル方法ニ依テ積ミ立テテ置クベキ乎ト云フ問題ヲ研
究シテ見ヤウ。

正貨ガ國民經濟上、重大ナル意義ヲ有スルノハ、兌換準備トナルト云フコトニ存
スル、故ニ正貨ノ大部ハ之ヲ兌換準備トシテ蓄ヘ置カ子ハナラヌ正貨ヲ兌換準備
トシテ貯ヘ置クト云フハ、正貨ヲ正貨若クハ金銀塊ノ形デ、貯ヘ置クノデアアル、決シ

テ之ヲ利殖スベキデナイ。

外國ニ在ル正貨ハ、日本銀行ノ發行スル銀行券ノ兌換ヲ外國ニ於テナサザル限リ、兌換準備ノ用ヲ爲サヌ、兌換準備ノ用ヲ爲スハ、之ヲ我國ニ送リタル後ニアル、其何時ニテモ我國ニ送リ得ルト云フノデ、間接ニ兌換準備ニ關係ヲ持テ居ルニ過キヌ、サレハ、在外正貨ハ直接ニ兌換準備ト看做サヌノヲ穩當トスル。現ニ我國ニ於テモ、在外正貨全部ヲ以テ兌換準備ト爲シテ居ナイ、兌換準備ト爲シテ居ルノハ其一部分ニ過キヌ、宜シク、理論ヲ徹底シテ全部兌換準備ト看做サヌトスヘキデアル。

在外正貨ニシテ、爲替資金トセラレ、又ハ利拂資金トセラレルモノハ、必スシモ正貨ノ形デ置ク必要ハナイ、之ヲ外國銀行ニ預ケテモヨイ、又之ヲ大藏省證券其他短期ノ確實ナル證券ニ放下シテモヨイ、併シ兌換制ノ維持ニ關シ疑ノアル國ニ於テ斯様ニ正貨ヲ利殖スルトキハ、終ニ正貨ヲ得ナイデ、紙幣ヲ得ルコトニナルカモ知レヌカラ、此方法ハ大ニ注意セ子ハナラヌ。

在外正貨ノ爲替資金若クハ利拂資金ト爲サナイモノハ、可成之ヲ内地ニ取り寄スベキデアル、内地ニ取寄スト、多クハ日本銀行ノ金庫ニ入り、正貨ノ準備トナル、正貨準備ガ多クナルモ、必スシモ常ニ兌換券ノ増發ヲ來サナイ、只兌換券ノ發行力ヲ

大トスルノミデアル、トコロデ、兌換券ノ發行力が大トナリテ居ルト、金融ノ逼迫、財政上ノ需要ノ生スル毎ニ、兌換券ヲ増發スルニテラウ、是ニ至テ初テ正貨ノ増加ト兌換券ノ増發トカ相關係シテ來ル、兌換券ノ増發ハ物價騰貴ノ原因デアルコトモアルガ、又結果デアルコトモアル、正貨ノ多キヲ以テ經濟界ノ危險ナリトスル説カ此處デ力ヲ得テ來ル、ソコデ、ソレヲ避クル爲メニ、正貨ヲ貯ヘルニ、又一ノ新方法ナクテハナラス、ソレハ外デモナイ、非常準備金デアル。

非常準備金ハ非常ノ場合ニ備フル金デアル、非常ノ場合トハ戰爭、恐慌等ノ起ル場合デアル、戰爭ニ備フルモノヲ戰爭準備金トシ、恐慌ニ備フルモノヲ恐慌準備金トナス、余ハ此際、有リ餘レル正貨ヲ以テ此種ノ準備金ヲ作りテ置カンコトヲ提唱シタイ、既ニ準備金タル以上ハ正貨ヲ正貨トシテ堅牢ナル庫ノ中ニ藏シテ置カテハナラス、庫中ニ空シク藏スレハ、何等利子ヲ生マズ、一見利子ノ損失トナル様デア
ルガ、非常準備ハ之ヨリモ尙優リタル利益ガアル、

戰爭準備金ハ、開戰ノ際、動員費ヲ支辨スルコトヲ得、以テ電光石火ノ間ニ、敵國ニ迫マリ、先ツ地歩ヲ占ムルコトヲ得ルノデアルカラ、今日ニ於テモ、尙充分ニ效用ヲ發揮スルコトガ出來ル、故ニ獨逸ノ學者ハ盛ニ之ヲ辯護シテ居ル、余ハ戰爭準備金

ヲ以テ、軍略上、財政上ニ利益アルモノトスル許リデナク、信用制度ノ維持ニ大ニ力アルモノト信スル蓋シ戰時ニハ信用ハ動モスレハ大ニ動搖セントスルモノデア
ル、此時ニ當リ、巨額ノ準備金ガ現ハレ出テテ中央銀行ノ金庫ヲ堅メルト、信用ノ動
搖ヲ靜メルコトガ出來ル、其利益ハ、殆ト金錢ヲ以テ評價スルコト出來ヌ、素ヨリ平
時ニ於テ失フ利子ノ比デハナイ、(9)

恐慌準備金モ亦戰爭準備金ト同シ様ニ論スルコトカ出來ル、只彼ガ戰爭ニ準備
スルヲ目的トスルニ反シ此レガ、恐慌ニ備フルヲ目的トスルヲ異レリトスルノミデア
ル、今我國政府ハ、兵器ヲ賣却シテ、一億五千三百萬圓ノ巨額ヲ持テ居ル、戰爭ガナカ
ツタナラ、到底手ニ入レルコト出來ナイモノデア
ル、之ヲ戰爭準備金トナスハ、決シ
テ困難デモナク、苦痛デモナイ、而モ亦一方ニハ正貨ノ多キヨリ生スル經濟界ノ危
險ヲ防キ得他方ニハ正貨ヲ握リテ、手離シセスト云フ方針ヲ維持シ得ルコトニナル。
日本銀行モ多クノ正貨ヲ擁シテ居ル以上ハ今日ニ於テ、恐慌準備金ヲ作ルニ、敢
テ困難デア
ルマイ、戰後數年間内ニハ恐慌ノ起ル危險ナシトセヌ、之ニ備フルハ、其
際ニ危險ヲ脱スルノ一方法デア
ルガ、又今日ノ有リ餘レル正貨ヲ利用スル一方法
トモ云ハチハナラヌ、

9) 拙稿、戰費支辨方法ヲ論ス一戰爭準備金論 (京都法學會雜誌第十卷第一號九五頁以下)